

チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

| | | | |
|-------------------|---|----------------------------|-------------|
| 地域課題タイトル (注1) | No. 15_1/3_1 | タイトル 森林・林業の持続可能な未来と地域振興 | 自治体名 京都市 |
| アイデア名(注2) (公開) | 京都の“木”と ICT の“目”でつながる“心” ～林福連携「京想」プロジェクト～ <small>きょうそう</small> | | |

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体(連合)が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

| | | |
|-----------|--|--|
| チーム名(公開) | チームKyo-So(共創し, 協奏し, 京想する) | |
| チーム属性(公開) | <input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム | |
| メンバー数(公開) | 21名 | |
| 代表者情報 | 川中 一樹 | |
| メンバー情報 | 氏名(公開) | 藤本 まり 桂田 佳代子 桑原 人司 河本 歩美 田端 重樹 佐藤 琢磨 土井 教諭 安井 源太 四辻 誠悟 仲井 亮文 吉田 信明 江崎 文章 西 森 寛 木下 智香子 松本 康志 芝池 玲奈 加藤 大智 廣瀬 一郎 谷内 和穂 伊藤 圭之 |

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公
共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_padit_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請

者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません）
5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2 ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

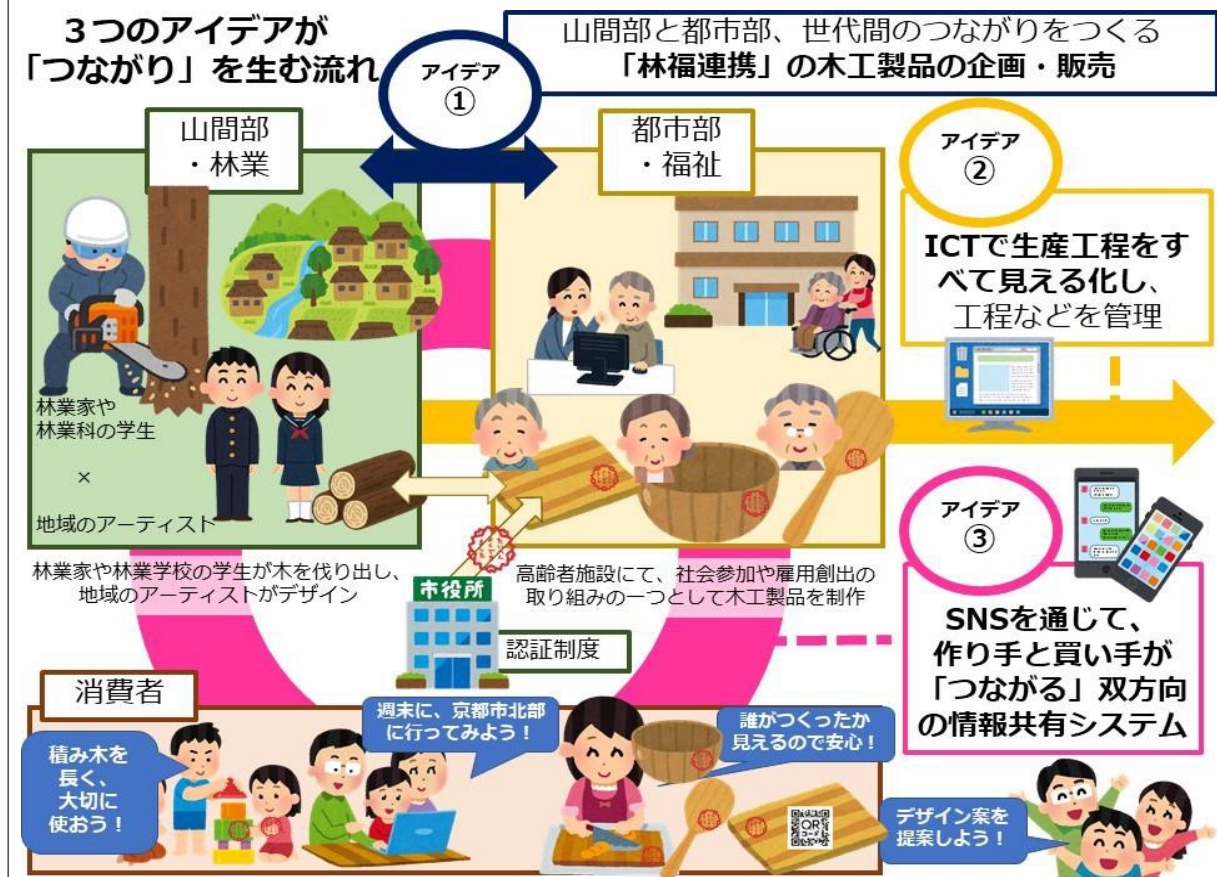
林業を主産業とする京都北部の農山村地域は、人口と担い手の減少、木材需要の低下により疲弊している。私たちは、ICT を活用して、農山村地域と都市部の「つながり」、若年者と高齢者の世代間の「つながり」、住民同士の「つながり」を創出することを通じて、林業の活性化、農山村地域コミュニティ全体の活性化を目指す。

<解決アイデアの内容>

【概要】林福連携による世代を超えたつながりで創る木工製品と ICT を活用したつながり促進の仕組＝「京想プロジェクト」

それぞれの既存の事業目的や課題意識を持つ事業者が「つながり」づくりの合言葉のもと、農山村地域と市街地、学生と高齢者、市民と事業者が協働した「木工製品生産事業」を企画する。同時に、「持続可能性の高い」「つながり」から生まれた木工製品であることを認証する制度の検討を京都市に求める。

また、生産過程を I C T で見える化・数値化し、その魅力を SNS で発信することで、「木」と「木に携わるすべての人」の価値を高める。そして、農山村地域と都市部の新しい顔の見える関係、多世代の新しいつながりを創出し、持続可能性のある木の利用と地域コミュニティの強化につなげる



<アイデアの特徴・前提として、大切にしたいこと>

- ① 「持続可能性×林業・森林」に共感したメンバーが互いにつながり、**継続性のある本業あるいは有償の事業として関わることで、継続性、推進力、他地域への展開力の高い持続可能な取組を目指す。**
- ② 社会的弱者、要配慮者と思われがちな高齢者や子供・若者と、産業基盤が弱体化した林業が組み合わせられることで新たな関係性や価値の創出という「つながり」によるイノベーションを起こす。
- ③ 行政の協力のもと、**徹底した現地主義、人主義で、視察やヒアリング**（下記（２）アイデアの理由 参照）によりデータを集める。

アイデア①「林福連携」の木工製品の企画・販売 ※林福連携：林業と福祉分野の連携

農山村地域にある高校の林業科の学生が切り出した木材と街の福祉事業者の高齢者と京北在住のアーティストがタッグを組んで、京北の木の魅力と作り手の想いが詰まった木工製品（木のおもちゃ、食器、SDGs グッズ等）をつくる。福祉施設や地域の高齢者が製作過程に携わりながら生産、販売する。

あわせて、地域課題、社会課題に貢献すると認定された木工製品に、行政（京都市）から「京杉木（みやこそまぎ）が結ぶつながり木工製品（仮）」認定マークを付けてもらう認証制度を提案する。

アイデア② ICT で見える化し、働く場の「つながり」を促進

木工製品の生産工程に携わる地域の住民（おじいちゃん、おばあちゃんなど）のための作業の場を作り、センサー技術を使い、そこに参加する人の行動を可視化する。（例：いつからいつまで〇〇さんが磨き作業に関わった、今この作業場に〇〇さんが参加中、など）

消費者向けに、（個人情報に配慮しながら）可視化された行動データを「木工品」のバックグラウンドストーリーとして発信するとともに、地域の中では、コミュニケーションツール、コミュニケーションの場づくりに生かしてもらう。

アイデア③ SNS を通じて、作り手買い手がつながることで、モノ（木工製品）づくりのプロセスを共有し、双方向の情報共有を実施

SNS プラットフォームを利用し、木工製品の背景、『見える化』された担い手の情報やインタビュー記事、地域の情報等を発信する。このプラットフォームを通じて、購入者が木工製品の背景を知られるだけでなく、購入者から感謝の言葉や使われ方が、作り手側にも共有され、関係者全体のやりがいにもつながる。



デザイン／製作
〇年〇月〇日～
〇年〇月〇日

きれいな木目が見えるようデザインにこだわりました！

磨き／仕上げ
〇年〇月〇日～
〇年〇月〇日

ひと月かけて丁寧に磨きました。手触りを楽しんで下さい。

購入場所：〇〇カフェ
購入日：〇年〇月〇日
購入動機：ひとめぼれ

とっても丁寧なつくりで使いやすいです！小さいサイズもあると嬉しいな。

【課題解決方法】

林業関係者、地域の方々、市街部の高齢者へのヒアリング、ワークショップの参加等の現地調査を重ね検証を進めた。「つながり」を生み出す持続可能性の高い事業を企画し、**セクター・地域の距離・世代を超えた新しいつながりの創出**による課題解決を図る

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

上記の「アイデアの特徴③」に記載しているとおり、徹底的な現地主義・人主義を大切にしたい。のべ 100 名以上の方との接点を持ちながらインタビューや視察、実証実験を実施。農山村地域や福祉施設をよく知る方々の生の情報を集めた。

■ 現地調査・公開ワークショップ 一覧

| 日付 | 活動内容/場所 | リサーチ対象 | リサーチャー |
|-------|---|---|--|
| 9/11 | フィールド調査（地域課題ヒアリング） 場所：京北地域全域 | 地域の方（自治会長、旅館女将、農家民宿経営者、農業従事者、地域おこし協力隊）等 | チームメンバー（IT企業社員、福祉法人職員、行政職員、フリーランス、学生等） |
| 10/8 | チーム立ち上げワークショップ 場所：京極ダイニング | 参加者：チームメンバー（京北地域の林業家、アーティスト、福祉法人職員、研究所職員、フリーランス、学生、行政職員、新聞記者（非メンバー）、ファシリテーター（非メンバー）等） | |
| 10/23 | フィールド調査（森林実習の視察） 場所：北桑田高校森林リサーチ科 | 北桑田高校 森林リサーチ科実習生、教員 | チームメンバー（研究所職員、行政職員、フリーランス、学生等） |
| 11/13 | 課題深掘りワークショップ 場所：コラボオフィス E9 | チームメンバー（京都市北部農山村地域の企業の行政書士、フリーランス、行政職員、環境エネルギー関連企業社員（非メンバー）等） | |
| 11/21 | フィールド調査（林業現地視察） 場所：京北銘木協会 | 京北銘木協会 会長、副会長 複数名の地域の林業家 | チームメンバー（研究所職員、行政職員、フリーランス、学生等） |
| 11/29 | フィールド調査（木工実習ヒアリング、林業作業現場視察） 場所：北桑田高校、京北山間地林業作業現場 | 北桑田高校森林リサーチ科実習生、教員 林業従事者 | チームメンバー（研究所職員、福祉法人職員、行政職員、フリーランス、大学職員（非メンバー）等） |
| 12/2 | 実証実験（福祉施設で木工作業のデータ化、見える化を検証） 場所：高齢者福祉施設 西院 | 京都福祉サービス協会 高齢者福祉施設 西院 利用者 複数名 | チームメンバー（福祉法人職員、行政職員、フリーランス等） |



↑9月11日、京北地域にてフィールド調査を実施。地域の現状を伺う。



↑10月23日、台風通過後の被災地。

【仮説】

木材利用の減少、林業の衰退の問題と、産業衰退に関わる地域力の低下の原因は、単なる木材需要の減少、人口減少だけではない「山間地域と市街地域のつながりの希薄化、地域コミュニティ内の人と人のつながりの希薄化であるのではないか」という仮説を立てた。

■ 定性情報

◎ アイデアの種①-1（京都市市街地、右京区西院の高齢者施設経営者の声）

「前例の少ない『有償ボランティア』による高齢者の社会参加事業を運営しており、新しい展開を模索している。これまで産地や販売チャネルにこだわりがなかった。地域課題を考えるワークショップや京北訪問に参加する中で、京北地域や林業の現状を知り、同じ右京区内の京北地域と連携した木工製品の企画を考え始めた。」

×

◎ アイデアの種①-2（右京区山間部在住のアーティスト）

「京北の魅力にひかれ家族で移住してきた。金属、木、ビジュアル等色々なアートを創作する一方、家族の農業を

手伝ったり、地域の電気工事屋さんと連携して『木工照明』のデザイン等も手がける。地域の子供たち、街の人たちに、SDGs の理念や地域の魅力を伝えたい。」

×

◎実際にヒアリングした要望（市街部の育児世代 家族の声）

「ぬくもりのある木製品を使った暮らし、子育てがしたい。」「顔の見える生産者の製品に興味がある。」「京都市の大半を森が占めているなんて知らなかった。」

⇒アイデア①から予測される効果と実際にあった声

- ・高齢者が、地域の自分達の子供世代、孫世代に伝えるモノづくりを通じて、社会参加によるやりがいの増進だけでなく、世代間の交流が促進される。
- ・関わる人や地域とのストーリーにより、京都の木、木工品の付加的な魅力が高まり、結果として関係人口の増加につながる。

●アイデアの種②-1 京都市市街地の IT 事業者)

「センサー技術を応用した人の行動の可視化技術が得意。地域課題や社会課題に興味があり、IT×〇〇で何か解決できることがあればとチームに参加。京北に初めて来訪し、地域の方や関係者の声を丁寧に聞いていく中で 出てきた『つながり』の重要性に技術を生かしたい。」

×

●アイデアの種②-2&地域の声（京北在住事業者）

「京北出身、京北在住。電気工事事業を営みながら、地元の間人として、地域活性化についてこれまで取り組んできたが、しっかりとした地域の産業の自立や、地域の人同士のつながりが育たないと取組が継続できないことが分かった。継続性のある地域の魅力発信や活性化が必要だと感じている。現在『木工照明』というデザイン性の高い照明を開発しており、この技術を活用した商品づくりがしたい。」

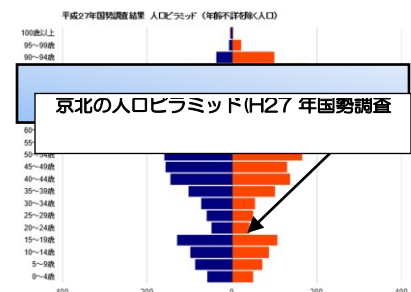
⇒アイデア②から予測される効果と実際にあった声

- ・木工製品の生産過程（森で切り出された木が多くの人の手を経て手元に来る）を知ることで、木工製品の価格の納得感が増す。
- ・木や木に携わるすべての人、高齢者に対するイメージが良くなる。
- ・地域で孤立しがちな高齢者の社会参加を促進することができる。
- ・情報発信の仕組（プラットフォーム）を使い、京北のバラバラな情報発信のポータル化が可能になる。

■定量情報 人口減少、担い手不足、木材需要の減少について

京都の山間地域を代表する「京北地域」について、地域への転入と転出の差である社会動態を見ると、年間多いときには100人を超える人々が地域外に流出している。また、平成27年の国勢調査に基づく年齢人口を見ると、20歳代の総人口に占める割合が極端に低く、高校卒業を機に地域を離れる若者が多い。また、農林水産省の森林組合統計によると、京都

府全体の数字であるものの、森林組合に所属する林業労働者のうち、50歳以上が占める割合は半数以上の52%であり、林業関係者の高齢化がうかがえる。農林水産省の木材統計調査によると、京都府内で取り扱われる木材の入荷量・出荷量ともに、1970年のピーク時の7分の1程度にまで落ち込んでいることが分かる。



(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

【アイデア実現の体制とヒト・モノ・カネに関する必要な資源について】

■ アイデアを実現する主体について

本アイデアは、事業の持続可能性を考慮している。継続性のある本業あるいは有償の事業として、企業や団体の各部門がセクターを越え定期的に集まりを持ちながら、主体的に関わることで、継続性、推進力、他地域への展開力の高い活動を目指す。

【アイデア実現までのプロセス】

| 内容/期間 | 2019 年度 | 2020 年度 | 2021 年度 | 以降 | |
|-----------------------------|---|---|---|---------|--|
| 【ネットワークづくり】 都市×山間つなぐシステム | 高校との連携事業 京都府立北桑田高等学校と連携事業を行う。 | 住民との連携事業 地域の祭りなどで商品の取り扱いや取り組みの紹介など住民と連携事業を行う。 | 取組発信 各組織の.HP.を活用しながら、取組発信を行う。 | | |
| 【持続可能な事業づくり】 林福連携プロジェクト | 試作品の検討・作成 | 製品モデルの決定 | 本格運用へ | | |
| 【広報の基盤づくり】 | SNS 等準備・開設 LINE, Facebook 等活用 | SNS 等メディアを活用した双方向の情報発信 | | | |
| 【活動体制づくり】 | | LINE: リッチメニュー活用、林業専用サイトの開設等 関係団体と連携した情報発信 SDGs 推進団体、林業女子等との連携 地元の体制づくり | | | |
| 【資金調達】 | 行政等の助成金検討・申請 | 自治会、地元企業、高校等 地域外との連携体制づくり 京都市内の大学、林業女子等との連携 | クラウドファンディング (CF) 準備 | CF 実施期間 | |

■ アイデア① 林業と福祉の連携【山間部】

木材の調達：京都府立北桑田高等学校 森林リサーチ科

⇒今後、地域の林業家にも声をかけていく予定。右記写真は、実習視察時のもの

木工製品のデザイン：京北地域在住のアーティスト（デザインを依頼中）や上記森林リサーチ科の学生、市街地のデザイン学校の学生がデザインを予定。





11月には、現地視察（京都市北部山間地域、台風被害の跡地、北桑田高校）および林業体験と林業従事者から林業の現状をヒアリング。過去の木工製品を地域の方に見せてもらい、今後のデザインの可能性を検討。

【都市部】

木工製品を加工する福祉施設：京都市公設民営老人福祉施設西院老人デイサービスセンター

⇒今後、他福祉施設にも展開予定、また山間部の福祉施設にも展開を予定。

木工製品に対する認証制度：京都市林業振興課に対して本アイデアとともに提案中

木工製品を販売する販路：現在、京都市内の雑貨店への販路があり、今後も京都市の協力を得ながら、地域のお祭りなどで販売と本プロジェクトの認知を高めていく。



12月には、上記福祉施設にて**実証実験の実施**と木工製品を制作されている現場を見学。

■ アイデア② ICTで見える化し、働く場の「つながり」を促進

ICTのシステム構築：京なか GOZAN（京都のIT企業複数社で運営）、京都コンピュータシステム事業協同組合が「NFC タグシール」とセンサーによる簡易な出退勤管理ツールモックアップを開発。これにより、木工品の「彫り」や「磨き」等の作業工程を「誰が」「いつ」「どこで」「どれくらい」関わったかを数値化（CSV出力）することが可能になる。「この木工品にはこれだけの手間と労力がかかっている」、「これだけの方が関わってこられた」という情報が消費者に伝わる。



■ アイデア③ SNSを通じて（木工製品）づくりのプロセスを共有し、双方向の情報共有を実施

上記アイデア③に記載（デモ画面例の画像添付）している通り、SNSプラットフォームを作成予定で、現在京都に支社を置くIT企業とテストサイトについて協議中。

■ その他 初期段階の資金調達について

クラウドファンディングにて調達：広報の専門家でもある、クラウドファンディングコンサルタントの藤本氏がチームメンバーにいてことため各主体共同で掲載

補助金の申請：各主体が必要な補助金を申請

